



地域とつながるFFG連携プロジェクト

FFGの幅広いネットワークを活かした地方創生の具体的な実例をご紹介します。

「伝統工芸」×「観光」の連携によるクラフト・ツーリズム

私たちFFGは、「地域と共に未来を創っていくこと」をスローガンに、観光・農業・雇用・産業・健康・教育など様々な分野での地方創生に取り組んでいます。今回は、広川町および広川町観光協会と連携した、伝統工芸品の販路拡大支援の取り組みをご紹介します。

福岡県の伝統的工芸品である「久留米^{くろめがすり}絣」は、筑後地域一帯で製造されている綿織物です。中でも広川町は11の織元を有する久留米絣の工房が最も多く残る町です。今回、久留米絣の新規顧客層の獲得や観光地としての知名度向上を目的に、広川町観光協会が主催する地域の「伝統工芸」×「観光」の連携によるクラフト・ツーリズムの実証実験の一環として、「オンラインかすり祭」を企画し、リアルとオンラインのハイブリッド開催をご支援しました。

広川 イチョウとかすりWeek 2021 ～イチョウとかすりに出会う秋～

太原のイチョウが黄金色に色づく時期にあわせ、久留米絣をはじめ、広川町の魅力を体感できる各種イベントをリアル×オンラインのハイブリッドで開催

かすりと特産品フェア

久留米絣を使った商品や地元の特産品の展示販売



久留米絣工房巡り体験バス運行

イチョウを観て、かすりを体験できるバス運行



オンラインかすり祭

※詳しくは左ページをご覧ください



久留米絣とは

200年を越える歴史の間、人の手と時間とともに磨き上げられた久留米絣。糸の段階から染められ、模様の入った糸で柄を合わせながら織り上げていきます。一反(長さ12m)を織り上げるまでに30もの工程があり、約3ヶ月間の時間を要します。そのひとつひとつに経験と技術を必要とする久留米絣の製造工程の一部をご紹介します。

くくり



染料が付くことを防ぐため、たて糸とよこ糸の柄になる部分を綿糸等でくくります。絣模様の原点で、作品の仕上がりに影響する重要な工程です。

藍染



糸を染料に浸して絞り、藍の酸化を促すため、その都度地面にたたきつけます。これを30回以上繰り返すことで、深い藍色に染まります。

織り



手織りと機械織りがあり、どちらも経験と技術を必要とします。手織りは専用の織機を使い、柄を合わせながら丁寧に織っていきます。

本取組みの一環として、11月15日(月)～28日(日)にかけて、「オンラインかすり祭」を開催しました。コロナ禍以降、「広川かすり祭」が開催できない状態が続いていることを受け、久留米絣のWeb販路拡大に資するため、iBankマーケットイングが運営するオンラインストア「エンニチ」において、約200点の久留米絣商品販売。さらに、久留米絣の織元が絣の魅力を発信するオンラインイベント「オンラインかすりツアー」を配信し、久留米絣の奥深い製造工程やその魅力を多くの方に発信することで、広川町に来ていただくきっかけ作りを行いました。

当部では、本取組みのようにFFGの地域総合商社機能を活用しながら伝統工芸品や地域産品の販路拡大やプロモーション支援を行っています。今後も、観光振興を通じた地方創生の取組みを進めてまいります。

「オンラインかすり祭」2021年11月15日(月)～28日(日)

オンラインかすり祭 @ エンニチ 2021

通常オンラインでは販売されない生地・反物や、期間限定のセール商品など、約200点の久留米絣商品販売。



オンラインかすりツアー

久留米絣の緻密で奥深い製造工程を、まるで工場見学をしているのかのような臨場感で配信。



福岡銀行 地域共創部
(左から) 鶴原、三船
【お問い合わせ】TEL (092) 723-2254



ストーリーでつながる、銀行系地方創生メディア

 bank baton



【SDGsとは】2015年9月の国連サミットにおいて全会一致で採択された国際目標です。2030年までに「誰ひとり取り残さない」社会を実現することを目指しており、下記の17の目標(ゴール)と、更に細分化された169のターゲットから構成されています。

